

川崎市役所
本庁舎建替

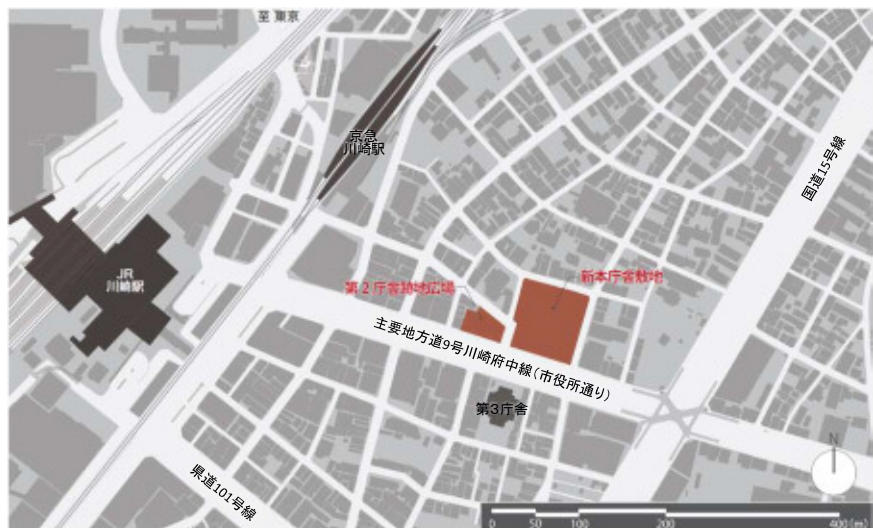
WEB NEWS

Vol.01
R2.07

令和2年5月
新本庁舎超高層棟の工事に

着手





本市の旧本庁舎と第2庁舎は、施設・設備の老朽化が進んでいるだけでなく、災害対策活動の中核拠点に必要なとされる耐震性能を満たしていないため、大規模地震が発生した際には行政機能及び議会機能を喪失し、市民・企業の生活再建・復興が遅れる可能性があり、特に旧本庁舎は倒壊の危険性があるなど、多大なリスクを抱えています。

また、床面積の不足などから、本庁機能が分庁舎や周辺の民間ビルに分散しており、行政サービスの低下や庁内執行体制の非効率化が生じているだけでなく、多額の賃借料負担も生じています。

こうしたことから、平成26年3月に「川崎市本庁舎・第2庁舎耐震対策基本構想」を策定し、現庁舎敷地で建て替えることを決定しました。



建物概要

敷地面積	: 6,002.11平方メートル
建築面積	: 4,357.79平方メートル
延べ面積	: 62,356.11平方メートル
階数	: 地下2階、地上25階、塔屋1階
最高高さ	: 116.97メートル
構造	: 鉄骨造 一部鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造



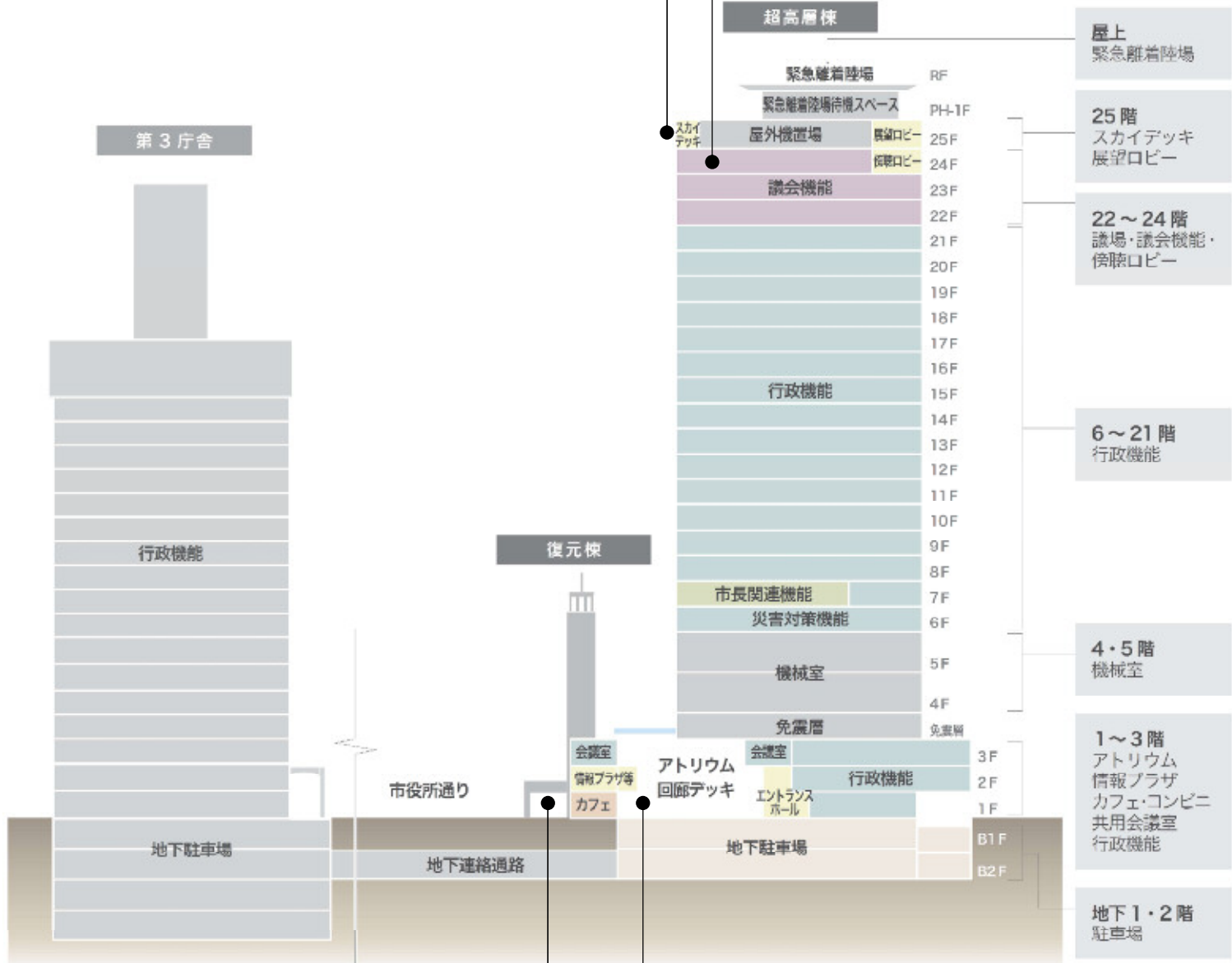
階層構成



25階は建物外周に沿って展望ロビーと半屋外のスカイデッキを設けます。



23・24階は吹抜の議場となっており、24階部分に傍聴席を設けます。



旧本庁舎の一部を創建当時の姿で復元します。



超高层棟と復元棟の間に、ガラス屋根のかかった半屋外のアトリウムを設けます。

施工クローズアップ

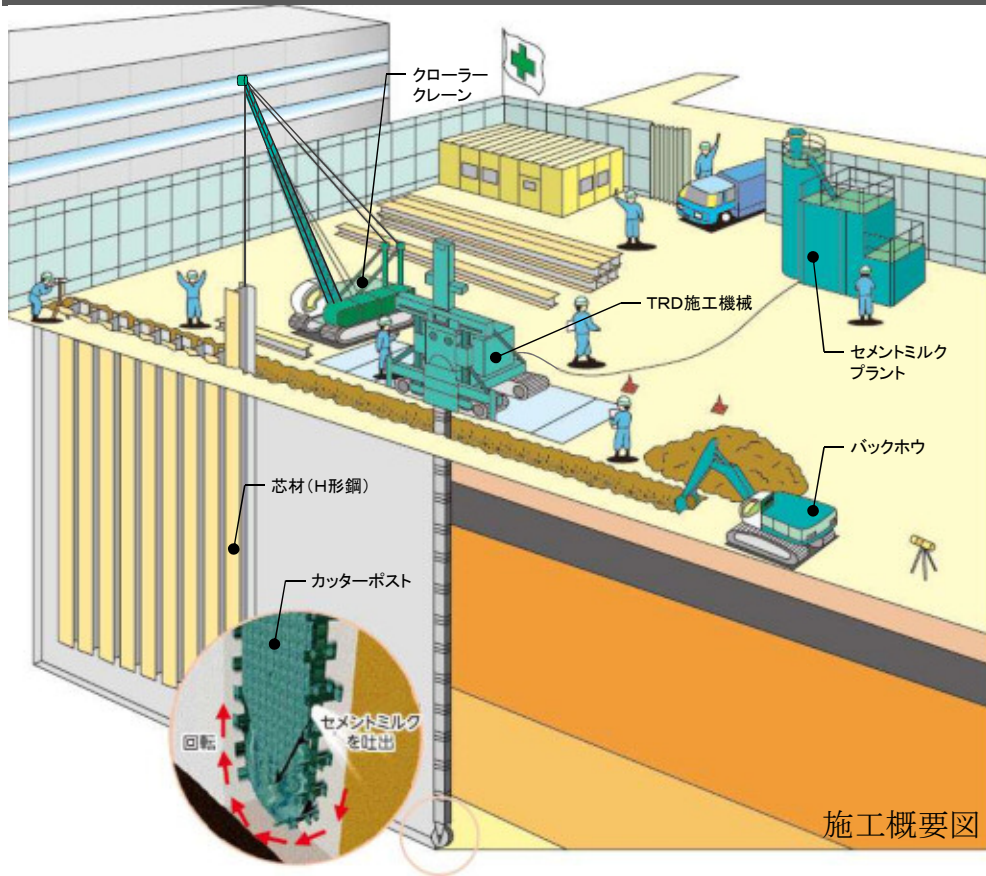
地下水流入を防げ 秘密兵器TRD導入

等厚式ソイルセメント地中連続壁工法



敷地は海と川に近い平らな土地であり、地面に穴を掘ると地下水が出てくるため、周りの地下水を通さないソイルセメント地中連続壁という山留壁を造ります。そこで採用されたのが、土木工事で使われる「TRD工法」で、巨大なチェーンソーのような機械です。この機械で、セメントを混ぜながら地下約28メートルまで掘り下げ、建物の周囲約270メートルを山留壁で囲み、地下水の流入を防ぎます。

TRD工法概要



TRD工法とは

所定の深さまで挿入したチェーンソー型の巨大なカッターポストのチェーンを上下方向に周回させ、原地盤を削りほぐしながら壁を構築する工法です。

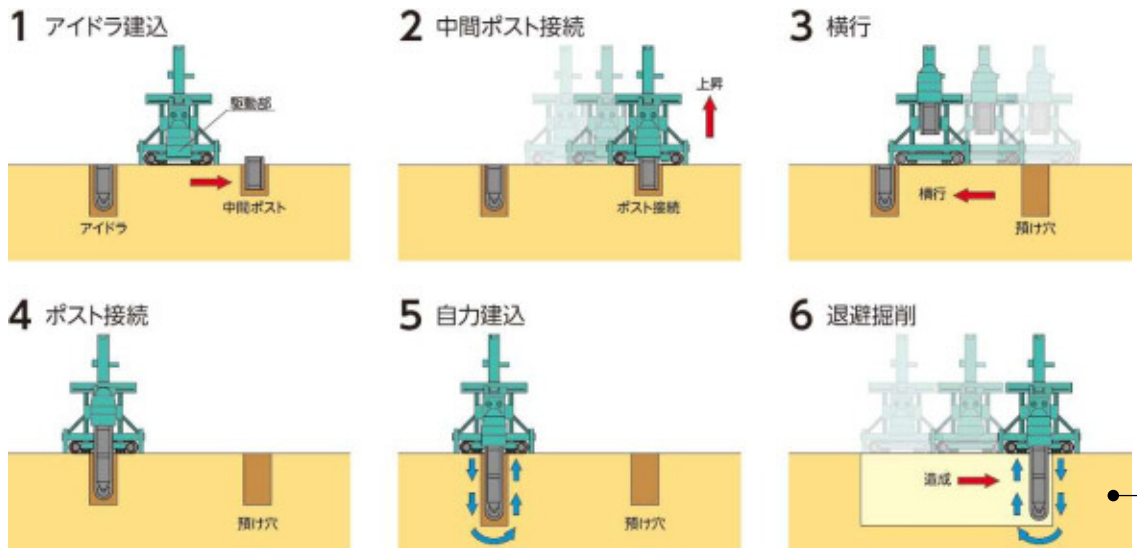
ほぐされた土は固化液と均一に混合攪拌され、掘削溝内に満たされ、一定時間を経て固化し地中に連続した壁を造成します。



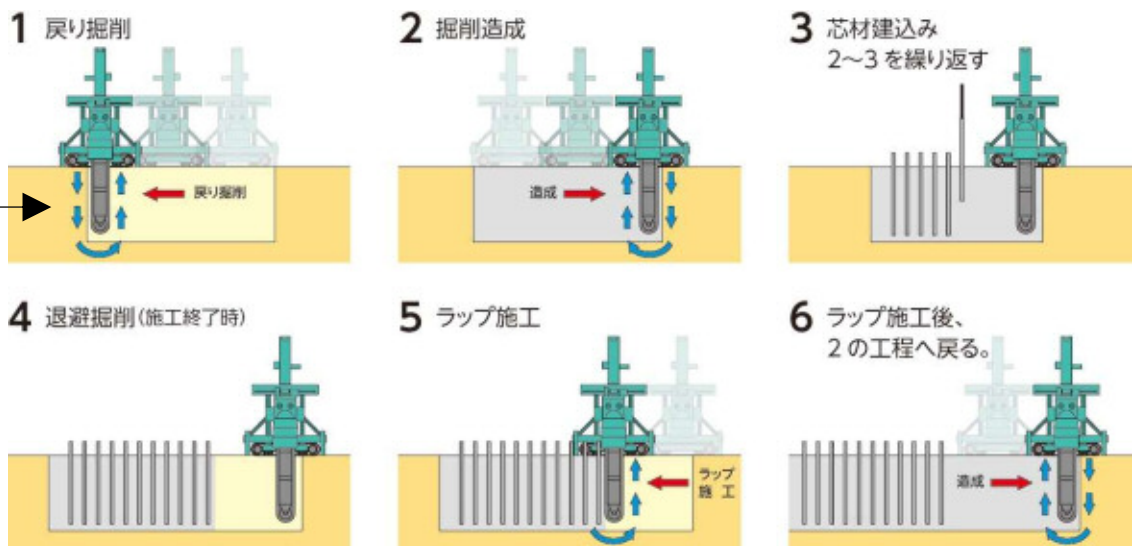
全長約65mの巨大なチェーン

施工手順

カッターポストの建て込み



造成手順





新本庁舎の縮尺250分の1の模型を、令和2年5月より第3庁舎1階ホールに展示しています。



定点全景:令和2年5月



発行・お問い合わせ先



Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市

川崎市総務企画局本庁舎等整備推進室

〒210-8577 川崎市川崎区宮本町1番地

TEL:044-200-0281

FAX:044-200-2110

次回発行は、杭工事着手後を予定しております。